

このページでは大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）のトピックスを紹介をします。

**冬の妖精、葉痕と冬芽（12月に自然庭園で観察できる動植物について）**

日の暮れるのが早くなり、寒さを感じられる季節となりました。自然庭園に訪れた人にとっても、冬は花が少なく、一見してつまらない季節のように見えますが、落葉した木々を飛び回る鳥の姿が観察でき、その鳴き声に心が癒される方も多いのではないのでしょうか。今月は、この寒い季節なりの庭園観察の楽しさを紹介したいと思います。

まず、葉が落ちて寂しくみえる落葉樹で、葉の枝、葉柄（ようへい）といいますが、落ちたあとの木肌のかたちに注目してください。葉の落ちたあとは、葉痕（ようこん）といい、よくみると、人の顔に見えたり、かわいらしい動物に見えたり、ユーモラスなものに見えてくるものがあります。

もうひとつは、この時期の樹木の芽の状態です。季節の冬と植物の芽で、冬芽（とうが）と言います。冬芽は、樹皮、樹形とともに冬の期間、植物名を知るのにも役立つものとされています。冬芽には、将来、葉や花となる部分が小さくまとまって入っています。そして、この時期の寒さ・乾燥から守るため、冬芽は、いろいろと工夫をしています。芽を硬い鱗のような芽鱗（がりん）で包んで寒さ・乾燥から芽を守るようにしたり、芽鱗などの覆いを持たない裸の芽が縮こまっているものを、裸芽（らが）と言いますが、こちらも、密生した毛で覆い、冬の寒さに備えています。庭園内ではネコヤナギや、フジ、シラカシ、イヌシデ、コブシ、ヌルデ、ムベ、ユズリハ、オニグルミなどで葉痕や冬芽がみられます。葉痕と冬芽をセットで冬の妖精と呼ぶ人もいます。

これからの季節、防寒の備えをして、葉痕、冬芽など表情豊かな樹木の姿や、鳥の声をお楽しみください。



オニグルミの冬芽といくつかの葉痕  
ヒツジさんのトーテムポールのようです



ユズリハのいくつかの冬芽と葉痕  
冬芽が手足にも見えて、人形のようです



ネコヤナギの冬芽  
産毛のようなものがある、くだものモモみたいですよ



コブシの冬芽  
綿毛に包まれて、暖かそうです

見聞館トピックス「冬の妖精、葉痕と冬芽」は、平成28年11月30日17時15分頃から、CityFMさいたま (REDSWAVE87.3FM) の番組「イブニングパス」内の「さいたまトピックス」のコーナーで放送された内容に、一部加筆したものです。

次回の「みぬま見聞館」についての放送は、平成28年12月28日を予定しています。ぜひ聴いてみてください！

このページでは大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）のトピックスを紹介をします。

### 冬の花蕨（1月に自然庭園で観察できる動植物について）

冬の芝生広場では、枯れた色の芝生の中にシダ植物の仲間を見つけることができます。

シダ植物というと、ツクシやワラビ、ゼンマイが頭に浮かんできます。前処理が大変ですが、山菜料理の食材として人気があり、美味しくいただけます。庭園でもツクシやスギナ、ワラビによく似たイヌワラビをよく見かけます。

シダ植物は孢子で増えます。ツクシは孢子を作る部分が一般にツクシの頭と言われるところで、ワラビは開いた葉の裏、ゼンマイは開いたゼンマイにつきます。

ところで、北風が吹くたびに木の葉は落ちて、背の高い草たちは枯れてしまい、地面に日がよく当たるようになりました。春が来たらどの草よりも早く伸びてやろうと準備している柔らかそうな草の芽が、枯れ草の間から見えかくれています。

芝生広場を歩いていたら、薄茶色になった芝生の中に突然濃い緑色の葉が現れました。切れ込みの多い葉が地面にはりつくように三角形に広がり、一本の茎が葉の下からまっすぐ上に伸びています。茎の先が円錐形の穂のようになって小さなツブツブがびっしり付いて花のように見えます。

フユノハナワラビです。フユノハナワラビも孢子を作る部分がゼンマイと同じです。夏の終わりごろに葉が出るそうです。冬になると花のように見える孢子囊穂を伸ばし、葉っぱと花のようなこの姿で冬を越します。春には孢子囊穂が枯れ、夏には葉も枯れてしまうそうです。

冬の、寒くて草花が少ない時期です。どちらかというと地味な色ですが、おもしろい形のこのフユノハナワラビを、ぜひ一度見てみてください。



見聞館トピックス「冬の花蕨」は、平成28年12月28日17時15分頃から、CityFMさいたま (REDSWAVE87.3FM) の番組「イブニングパス」内の「さいたまトピックス」のコーナーで放送された内容に、一部加筆したものです。

次回の「みぬま見聞館」についての放送は、平成29年2月1日を予定しています。ぜひ聴いてみてください！

このページでは大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）のトピックスを紹介いたします。

### 冬越しのすがた（2月に自然庭園で観察できる動植物について）

2月は一年で一番寒い時期です。冬枯れが進んだ草木はすっかり彩りを失い、静かに北風や冷気に耐えているようです。また生き物の姿もめっきり減り、木のあいだを元気に飛び回る鳥たちの姿だけが目につきますが、春を待つ草や昆虫の冬越しの姿をさがすのも、冬の庭園を観察する楽しみの一つです。

葉の落ちた木をよく見ると、昆虫たちはいろいろな姿で越冬しています。カイコの原種といわれるクワコの幼虫は、暖かそうな薄黄色の繭玉で、ミノムシと呼ばれるミノガの幼虫は、固く丈夫そうなミノの中で、それぞれ風を子守に揺られています。陽の当たる幹の割れ目や落ち葉が重なった裏には、テントウムシやカメムシが固まっていることがあります。小さなウズラの卵のような形をしたイラガの繭も、固い殻に覆われて冷たい外気をシャットアウトしています。同じ絵柄がないと言われるほど多様なデザインが、私たちの目を楽しませてくれるでしょう。

また、ロゼットと呼ばれる冬越しの形をした草を探すのも楽しいものです。冬の弱い陽を全身いっぱい浴びようと、両手両足大きく広げているようです。オニタビラコ、キツネアザミ、ハハコグサやミゾコウジュの小さなロゼットは、枯野の乾いた風景に小さな春を感じさせてくれます。何も無いと思われる冬の庭園も、生き物の営みは静かに続いています。

そんな姿をさがしにぜひ大宮南部浄化センター自然庭園にお越しください。



クワコの繭（まゆ）  
風に揺られています



ナズナのロゼット  
冬越しのかたちです



ミゾコウジュのロゼット  
小さいけれど頑張っています

見聞館トピックス「冬越しのすがた」は、平成29年2月1日17時15分頃から、CityFMさいたま (REDSWAVE87.3FM) の番組「イブニングバス」内の「さいたまトピックス」のコーナーで放送された内容に、一部加筆したものです。

次回の「みぬま見聞館」についての放送は、平成29年3月8日を予定しています。ぜひ聴いてみてください！



## スプリングエフェメラル～春の妖精～（3月の自然庭園では） ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）](#)のトピックスを紹介をします。

### スプリングエフェメラル～春の妖精～（3月に自然庭園で観察できる動植物について）

立春を過ぎ、陽ざしの温かさを少しずつながら感じられるようになりました。自然庭園を訪れる人にとっても、多くの植物、生き物に出会える季節となってきました。

今月は、早春に庭園でみられる花々の紹介をしたいと思います。

この時期には、ニリンソウの花が見られます。ニリンソウは白い可憐な花を咲かせますが、ほかの植物が芽吹き始めるころには花が終わり、やがて地上部も枯れて姿を消し、次の年の春先までの長い期間、地下茎や球根の姿で地中にて過ごします。このような植物を総称して「スプリングエフェメラル」と呼ばれています。この名前は、直訳すると「春のはかないもの」「春の短い命」というような意味で「春の妖精」とも呼ばれています。少し遅れて咲くムラサキケマンも同じです。庭園内では見られませんが、カタクリ、フクジュソウ、セツブンソウなども代表的な「スプリングエフェメラル」で春に花を咲かせます。

また、白い花を咲かせるコブシのように、若葉が育つ前の葉のない枝に花を咲かせる木があります。他にも、サンシュユ、アンズ、オオカンザクラ、ハンノキなどが、葉のない枝に花を咲かせ、早春の訪れを感じさせます。

若葉と一緒に花を咲かせるボケ、ユキヤナギ、ユスラウメも、この時期に合わせて見ることができます。

たくさんの花の咲き誇るこれからの季節、早春の息吹を感じに、みなさんで自然庭園にお越しください。



サンシュユ



オオカンザクラ



ボケ



ユキヤナギ

見聞館トピックス「スプリングエフェメラル(春の妖精)」は、平成29年3月8日17時15分頃から、CityFMさいたま (REDSWAVE87.3FM)の番組「イブニングパス」内の「さいたまトピックス」のコーナーで放送された内容に、一部加筆したものです。

次回の「みぬま見聞館」についての放送は、平成29年4月5日を予定しています。ぜひ聴いてみてください！